



# マクロ経済学A

---

## 第11回 貨幣市場の需要と供給



# この授業の内容

---

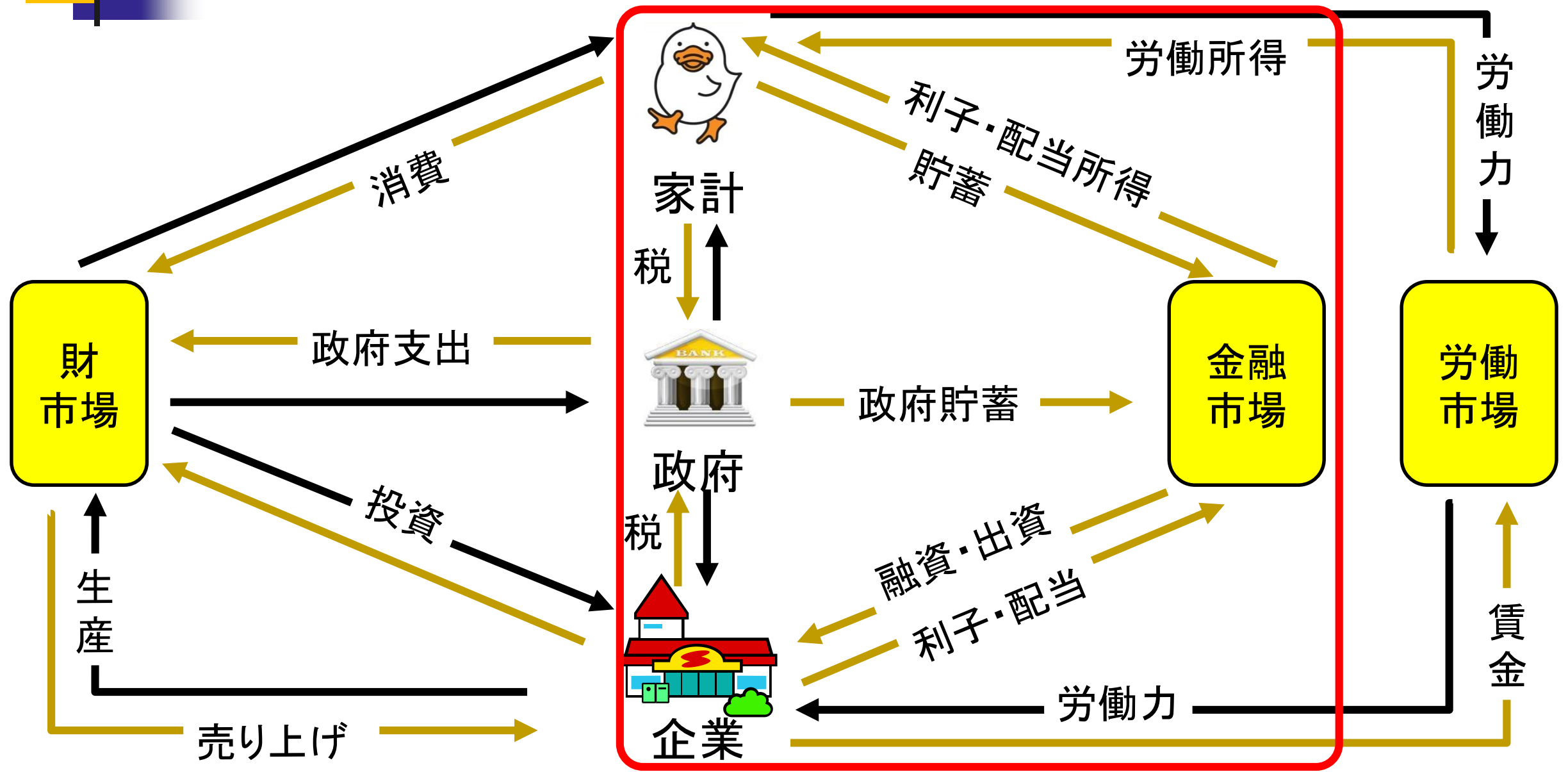
- ① 貨幣需要
- ② 中央銀行
- ③ 貨幣供給と貨幣市場の均衡



## ① 貨幣需要

---

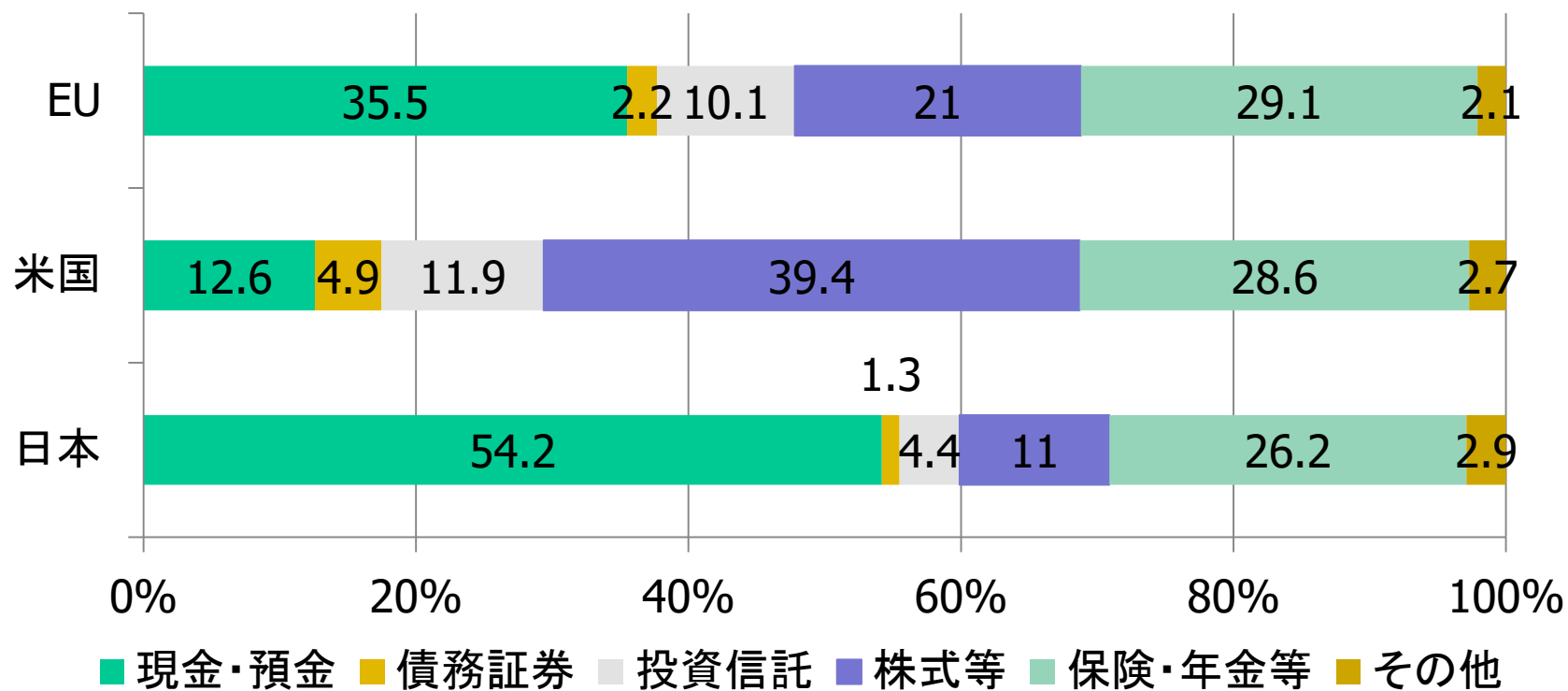
# 経済主体と市場の関わり



# 貨幣需要

## ➤ 人々はどのような時に貨幣を需要するか

### ➤ 家計の金融資産構成





# 資産の構成

---

➤ 我々が資産として蓄える方法は大きく4つに分けることができる

➤ 現金・預金

➤ 債務証券

➤ 投資信託・株式

➤ 保険・年金・定型保証

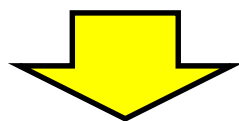
収益性

流動性

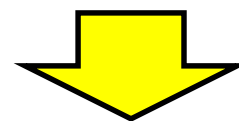
で特徴づけ

# 資産の特性による分類

	現金・ 銀行預金	債務証券	投資信託・ 株式	保険・年金・ 定型保証
収益性	ゼロ	高い	高い	高い
流動性	非常に高い	低い	低い	低い



貨幣



金融資産

資産構成の意思決定  
貨幣と金融資産をどの割合で持つか

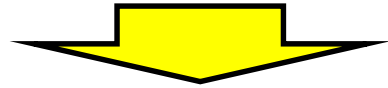
# 貨幣への需要（投機的動機）

## ➤ 貨幣保有を増やしたい

↳ 金融資産保有を減らして貨幣保有を増やす

← すぐには資産総額を増やすことができない

➤ 貨幣保有を増やす＝金融資産保有を減らす



➤ 貨幣保有を100万円増やすとすると、金融資産を100万円分**手放す**必要がある

➤ 利子率が1%だとすると、貨幣保有を増やすことは金融資産のまま保有していれば手に入れられた**1万円分の利子**をあきらめたことを意味する

利子率が高くなるほど、貨幣需要は減少



# 貨幣への需要（取引的・予備的動機）

- 所得（GDP）が増加すると支出も増加
  - 貨幣保有を増やしたい
    - ↳ 金融資産を減らして貨幣保有を増やす
  - ← すぐには資産総額を増やすことができない
- 貨幣保有を増やす＝金融資産保有を減らす



所得が高くなるほど、貨幣需要は増加



# 貨幣需要関数

---

## 貨幣需要関数

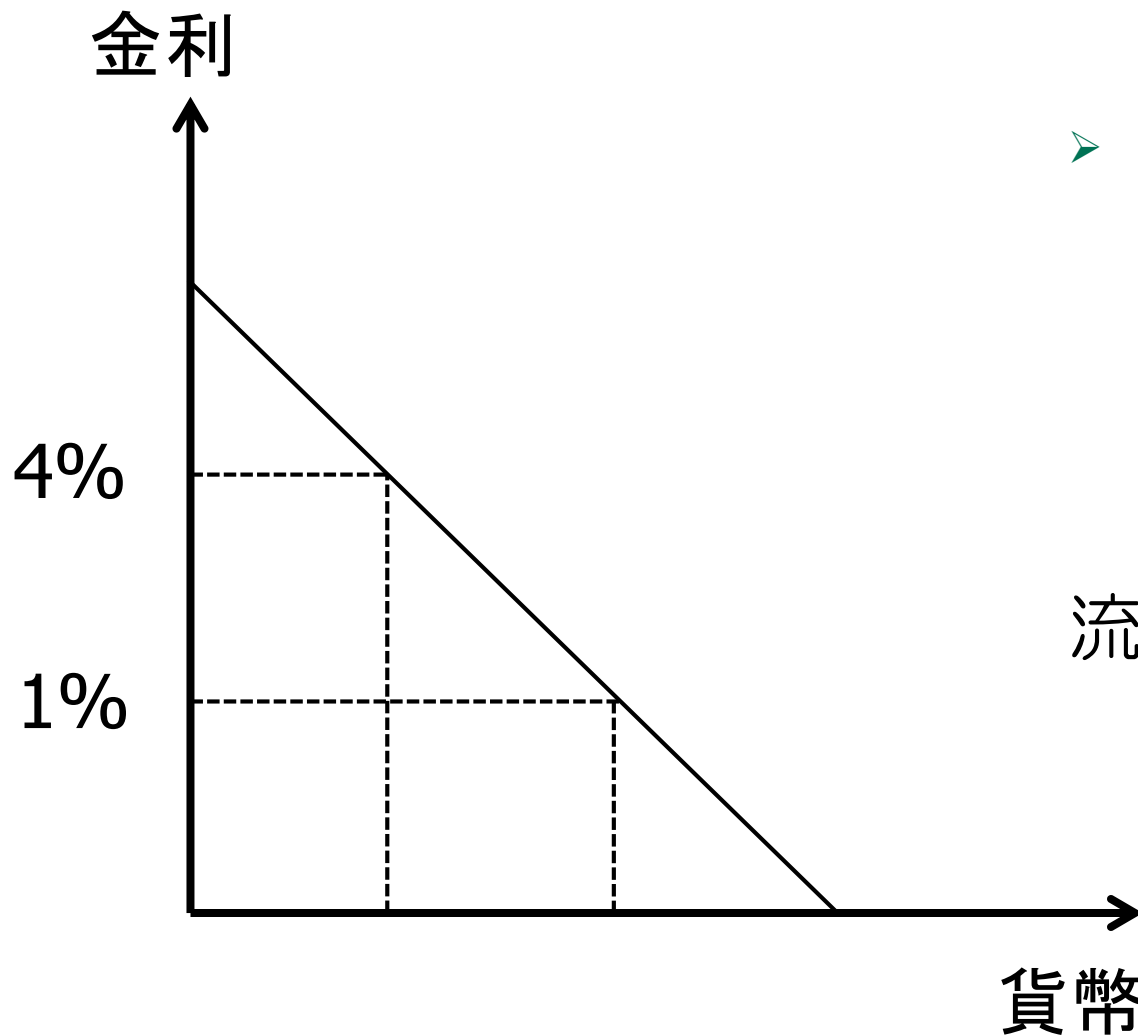
人々が保有しようとする貨幣量を所得と利子率の関数として表したもの

➤  $M_D = L(Y, r)$

[ $M_D$ ：貨幣需要量,  $Y$ ：名目GDP,  $r$ ：利子率]

- $Y$ が増加（減少）すると $L$ が増加（減少）
- $r$ が増加（減少）すると $L$ が減少（増加）

# 貨幣需要と利子率の関係



- 利子率が上がると貨幣を保有する費用が上がる
- 貨幣を保有する費用？
  - 貨幣を保有することで犠牲にされる利子収入  
→ 貨幣保有の機会費用

## 流動性選好

利子は貨幣の流動性を犠牲にすることの対価であるために貨幣需要は利子率の減少関数となるという仮説



## ② 中央銀行

---



# マクロ金融政策

---

マクロ金融政策：政策当局が様々な金融的な政策手段を利用して  
マクロ経済活動に働きかけること

政策当局：日本銀行

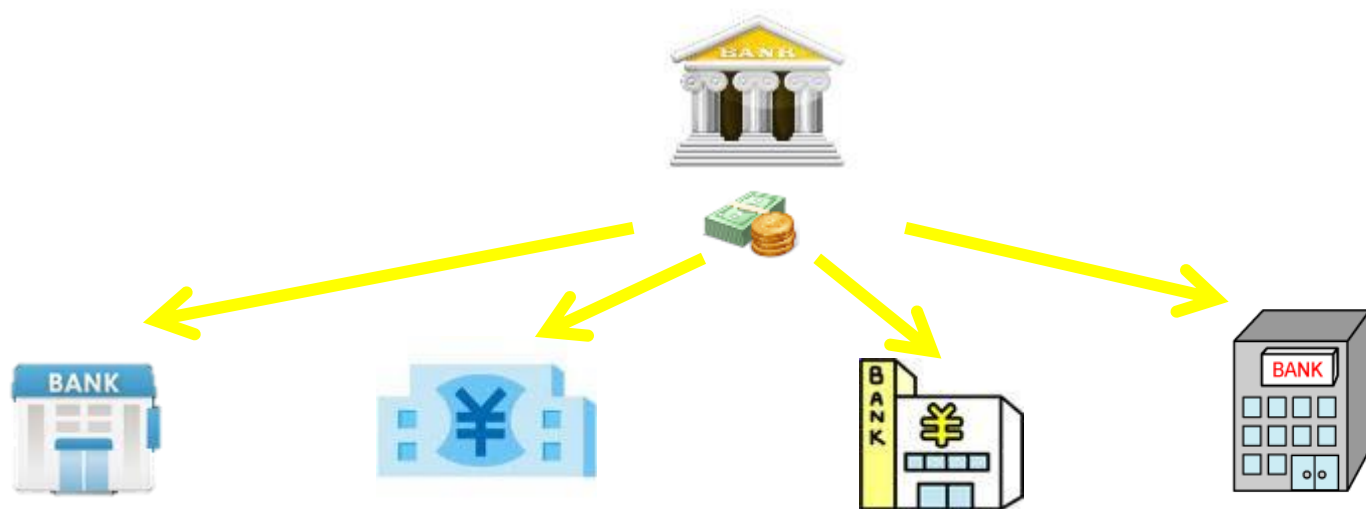
政策手段：

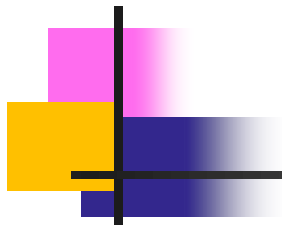
- 公定歩合操作
- 預金準備率操作
- 公開市場操作

# 公定歩合

公定歩合：中央銀行が取引先金融機関に対し、手形割引や手形貸付の形式で信用を供与する際に適用する金利

- 正式名称は「補完貸付制度の基準金利」
- 高度成長期には多く利用されていた





高度成長期によく利用されていた理由

預金金利が規制

→ 公定歩合とともに預金金利も変更

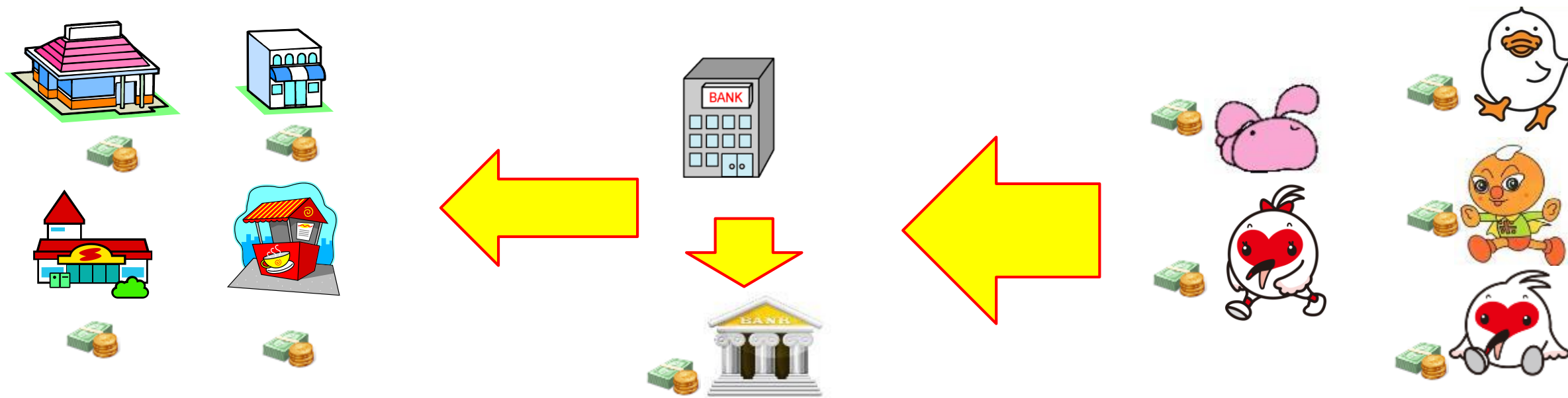
民間銀行は常に資金不足

→ 金融政策として大きな効果

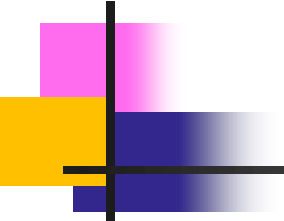
金融引締め期に窓口指導

# 預金準備率操作

負債（預金）の一定割合を日本銀行に無利息で預金しなければならない  
当初預金者保護の観点から欧米で導入されたが，現在はその機能はほとんど持たず，金融政策手段の一つとなっている







# 預金準備率操作が使われない理由

---

現在は主要な金融政策となっていない

1991年以降準備率の変更はない

あまり使われない理由

- ①微調整に向かない
- ②引き上げが銀行経営に大きな影響を及ぼす
- ③対象となっている金融機関と対象外の金融機関の競争に影響を与える



# 補完当座預金制度の導入

---

2008年11月 補完当座預金制度が導入

超過準備に対して金利を支払う制度

→政策誘導金利（コールレート）の下限を決める

2016年1月 マイナス金利政策を導入

一定額を超える超過準備の部分に対しマイナス  
金利が適用

準備金は無利子、プラス金利、マイナス金利の  
3層構造に



# 公開市場操作

---

中央銀行が金融市場において国債などの債券や手形の売買を行う  
政策手段

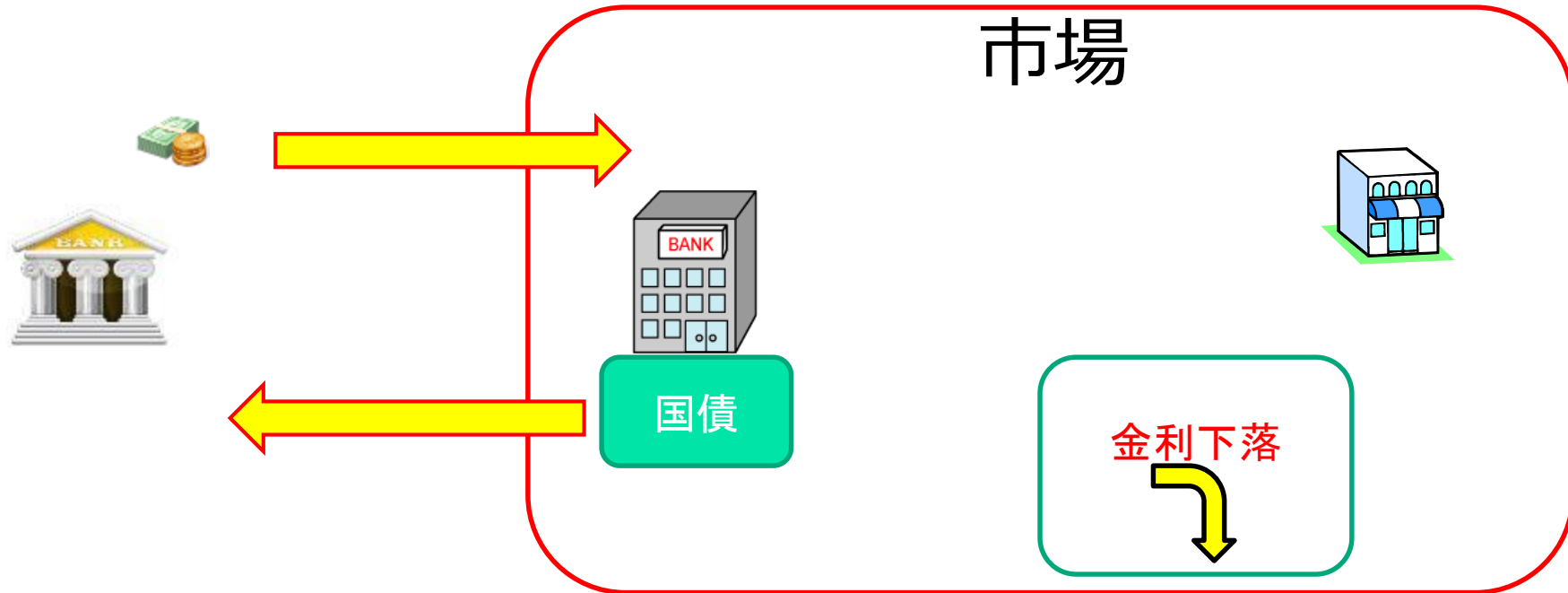
現在の最も主要な政策手段

日本では、かつて銀行のみが参加できる  
インターバンク市場が中心であったが対象となる  
市場が多様化してきている

売りオペレーション：市場から資金を吸収      →    金利上昇

買いオペレーション：市場に資金を供給        →    金利下落

# 公開市場操作 買いオペレーション





### ③ 貨幣供給と貨幣市場の均衡

---



# 貨幣供給関数

---

## 貨幣供給関数

貨幣の供給者は中央銀行

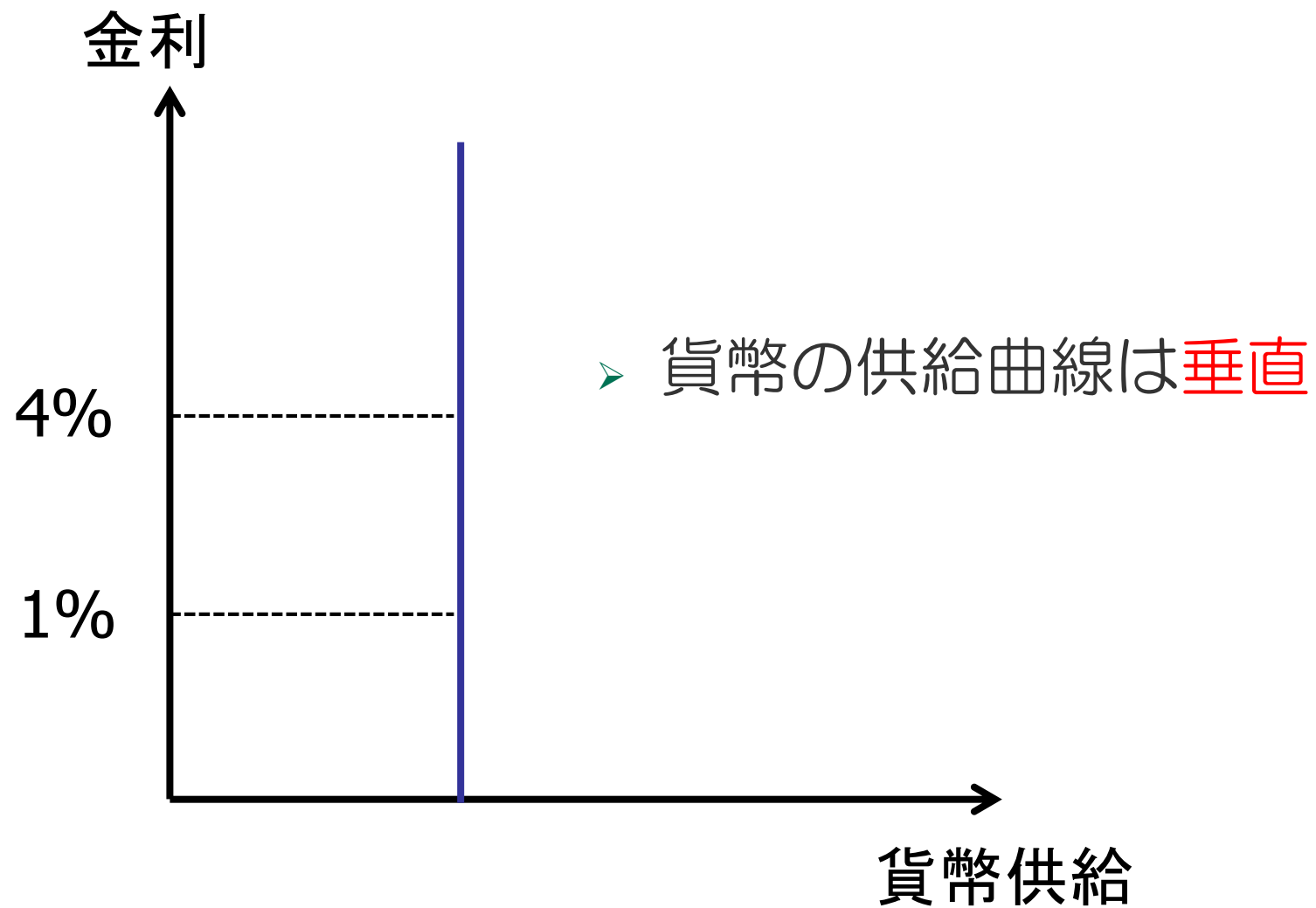
- 銀行も信用創造で貨幣を供給しているが、中央銀行がコントロールしているため

$$M_S = M$$

[ $M_S$  : 貨幣供給量,  $M$  : 貨幣量]

- $Y$ や $r$ が変化しても一定

# 貨幣の供給



# 貨幣の需給の一致

均衡利子率は2%

貨幣の需要と供給が一致している

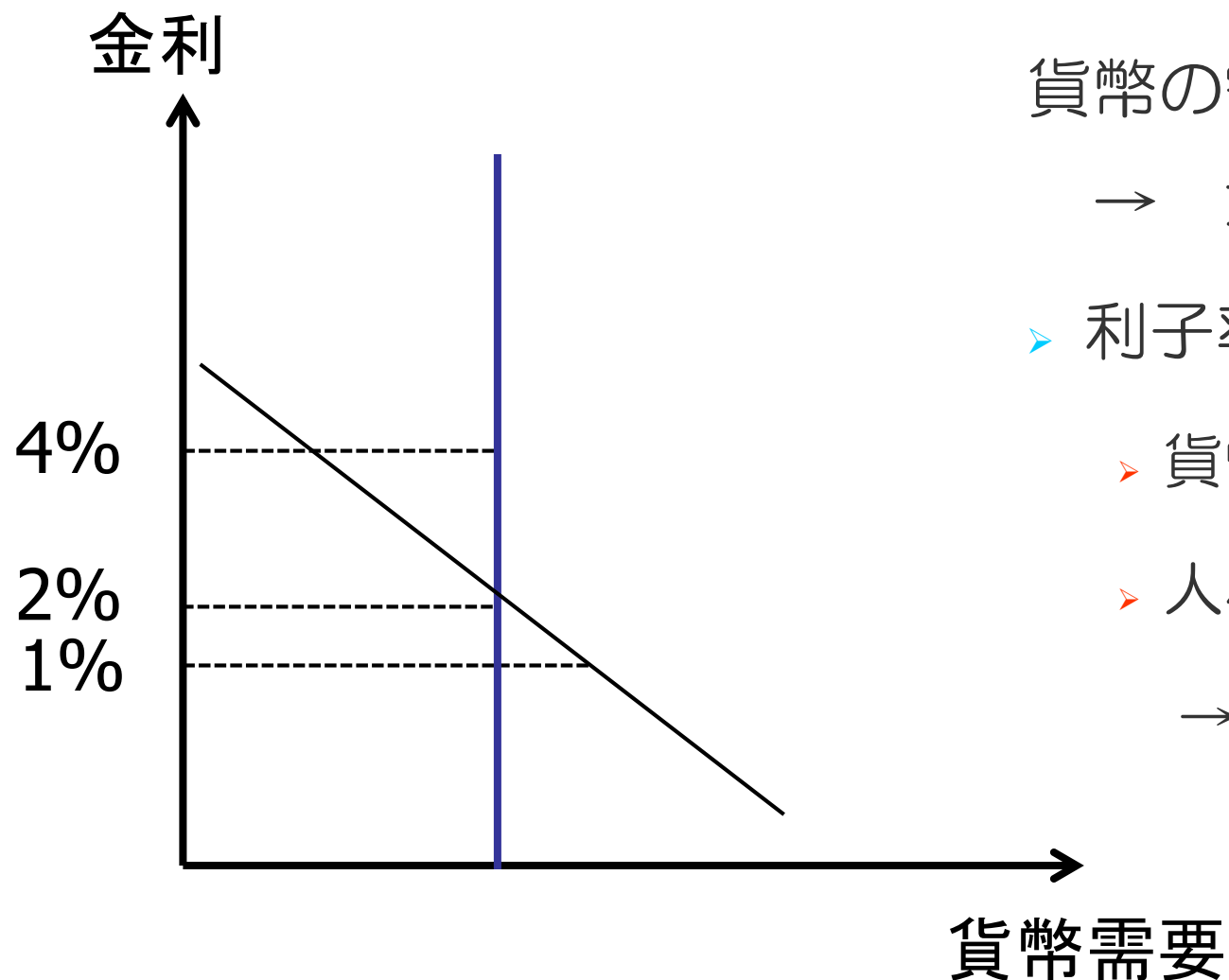
→ 均衡

▶ 利子率が4%の時

▶ 貨幣供給量よりも貨幣需要が少ない

▶ 人々は貨幣よりも金融資産を持ちたい

→ 利子率が下がる







# この授業で学んだこと

---

## 貨幣需要

取引的動機、予備的動機、投機的動機、流動性選好

## 中央銀行

公定歩合、預金準備率、公開市場操作

## 貨幣供給と貨幣市場の均衡